

令和5年度自己評価表の公表(こどもデイサービスひまわり) <2023.11実施分 集計表>

		チェック項目	取組状況・改善目標	はい	どちらともいえない	いいえ
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適正であるか	活動スペースは広く部屋を仕切ったり個室を使用するなどして個別な配慮もしやすくしている。外も広く遊具や自転車などでも十分に活動できるが、範囲が広いので安全面に注意し職員間で連携を密にし隙のない支援をしていく。	7		
	②	職員の配置数は適切であるか	多動や情緒面で配慮が必要な子どもが多くいるので、保育士、児童指導員が様々な研修を職員が受講できるようにし、知識を持って対応できるようにしている。また、子どもの状態に応じて職員を増員し、安全に活動できるようにしている。	7		
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	現在の利用者から見ると環境はほぼ整っているが、今後も利用者の状態に合わせて改修等していきたい。利用者の出入り口はぶつからないよう2カ所開けている。	7		
業務改善	④	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	利用者の状態などを定期的に職員会議を開き話し合っている。午前中や午後の時間でも話し合いや共通理解の場を持っているが、非常勤職員や休みの職員で会議に入れない時もあるので、意識統一のため、その都度伝達の漏れがないように注意していきたい	7		
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	評価表を配布するときに保護者への説明文書(アンケート結果を業務改善に繋げることを知らせる)も添付している。アンケート結果から保護者に分かりやすい説明をしたり改善点を探るようにしている。	7		
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	例年、事業所の掲示板に掲示したり、ホームページへの掲載もしている。お便りでも内容に触れたりもするが、まずは事業所の中身や取り組みを知ってもらう機会を作ることが大切だと考えます。	7		
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	なかなか外部からの評価を受ける機会はないが、事業所で会議をもつとき等は活動の様子を見てもらったりし意見をもらっている。今後は検討していく。	5	2	
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	県等から案内された研修には必ず1名は参加し、その他の勉強会に参加した職員からのも含めて内部研修を実施している。研修に参加する機会を均等に持てるようにし職員の意欲向上につなげる。	7		
適	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	利用開始時には必ずアセスメントを行い、他事業所からの情報ももらって、保護者や本人のニーズも確認した上で相談のサービス等利用計画を基に、個別の支援計画を作成している。(デイでも要望は確認している)	7		
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	統一したアセスメントツールはあり、毎年見直しをしながら個別支援計画書を作成している。年齢層に幅もあり、理解にも差があるので、アセスメント項目の内容を見直すより良いと思う。	6	1	
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っているか	行事等の予定は予め話し合い決めている。児発管が統括する中で、利用者個々に合わせた個別や集団で取り組みことを決め、共通理解をした上で支援に入っているが、会議に出られない職員もいるので伝達漏れのないようにする。	6	1	
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	決まったルーティンで動くことで安定して過ごしている人もいることを理解した上で、情緒面の安定を図りながら新しいことに興味を持てるようにも誘っていきようにはしている。	6	1	
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	基本的な流れを決め、平日でも長期休暇でも見直しを持って過ごせるようにしている。時間が多く取れる時は個別や集団で行う課題や遊びをそれぞれ設定し、様々な体験ができるようにしている。	7		

切な支援の提供	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	個別活動と集団活動(他者を意識した活動)のバランスを考えながら支援をしている。まずは十分に本人に付き合い気持ちを満たすことを大切に、その後子ども同士の相性を見ながら小集団での活動、輪を広げていけるような意識をもって計画を作成している。	7		
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	毎日ミーティングを行い、時間によって参加できなかった職員へは伝達したり、記録の確認をしてもらっている。その日の利用者ごとの担当を決め、状態の引継ぎや役割の確認もしている。たまにしか入らない職員もいるので伝達漏れが無いようにし、共通理解をしていく必要がある。	7		
	⑯	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	送迎に係る時間により帰着時間もバラバラなため、その日のうちに全員での振り返りは難しい状況であるが、翌日の支援に入るまでには職員間で話し合いを持ち、共有化を図っている。	5	2	
	⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	利用者一人一人の活動記録をその日に担当した職員が記入し様子等が次回へと繋がるようにしている。気づいた問題点も挙げ、話し合いに繋げて問題の解決策を探るようにしている。	7		
	⑱	定期的モニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	半年に1回はモニタリングを実施し見直しを行っている。職員の中で話し合いに出られない人がいる場合は事前に意見を聞いたりし、皆で統一した意識や関りができるようにしている。	7		
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っているか	厚労省のガイドラインに示されている基本活動を指針として、活動プログラムを作成している。職員にもガイドラインの内容が周知できるように研修を行う。	7		
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	担当者会議の日程を相談支援専門員と調整し、内容に応じて相応しいものが参画するようにしている。会議の内容については持ち帰り、職員間で共有していく。	7		
	㉑	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	学校からは下校時間の書かれたプリントをいただいたり、変更があれば電話連絡をもらったりしている。保護者から知らせてくれることもあるが、こちらから学校に問い合わせる場合もある。送迎時に、努めて教師との関係性作りもしていき、情報共有ができるようにしていく。	7		
	㉒	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	現在は医療的なケアが必要な子がいないが、今後必要があれば連絡体制を整えていく。	4	2	1
	㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	今年度、他事業所から移ってきた子については会議を行い情報共有をした。今後も必要に応じてお互いの支援の経過や、支援の方針等の話し合いの場もてるといい。	5	2	
	㉔	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	保護者への情報提供はしている。又、利用者によっては移行支援会議等で情報共有ができています。今後もそのように努めていきたい。	7		
	㉕	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	発達障害者支援専門員の職員から、研修や勉強会での内容を基にした話を聞く機会がある。また、利用者によっては必要な助言を受けている。案内があれば可能な限り研修会にも参加している。	7		
	㉖	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	児童クラブ等との交流については、保護者の意向も分かれていて実現はできていない。行事を通じて兄弟児を呼んだり、学生ボランティアを依頼したりし交流の機会は持っていると考えている。その他お出かけや買い物等の体験を通して、障害のない子どもや大人と触れ合う機会もてるようにしている。	1	5	1
	㉗	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	地域の協議会はあまり稼働していない(呼ばれないだけか)ようだが、案内があれば参加したい。	3	4	

	⑳	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	子どもの状況は必要に応じて伝え合っている。連絡ノートで伝えにくい事柄については、送迎時や電話連絡をして対応している。解決すべき課題についても共通理解をして、それぞれにアプローチができるよう話している。	7		
	㉑	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	今年度は保護者の茶話会を開催し、その中でも各家庭での子どもへの対応を聞く機会を持つことができた。又、それぞれの話を聞きながら関わり方のアドバイスをしたりもできた。	5	2	
保護者への説明責任等	㉒	運営規定、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	利用契約の締結時には、重要事項説明書に沿って利用規約、支援の指針と具体的な内容、利用者負担額等を確認し、それぞれに応じた説明を行っている。	7		
	㉓	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	相談頂ければ全て真摯に対応している。担当者一人では適切な助言ができない場合は、事業所として適切な回答を模索した上でアドバイスをしている。	7		
	㉔	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	今年度は4年振りに“ふれあいの日”を開催し、その中で保護者同士の交流の場を持つことができた。今後も定期的に開催し保護者が繋がりあえる機会をつつていきたい。	7		
	㉕	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	苦情はほとんどないが、あれば迅速に対応していきたい。子どもたちの声にも耳を傾け、不満等がある場合はよく話を聞くようにしている。行き違いによって生じた苦情については事実の確認をして原因を探り、再発防止に努めている。	7		
	㉖	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	ひまわり通信を定期的に発行している。子どもたちの活動の様子や、ひまわりからのお知らせ、お願い等も載せ、保護者への情報提供を図り協力を求めたりもし、活動への理解に繋がればと思っている。	7		
	㉗	個人情報に十分注意しているか	個人情報に記載されている文書は鍵付きのロッカーで保管し、それらの文書の廃棄にはシュレッターを使う等、個人情報の取り扱いには注意をしている。通信やホームページでも写真を使用することもあるが、事前に意向の確認をしている。	7		
	㉘	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	子どもや保護者、それぞれの特性に合わせた配慮や伝え方をしている。	7		
	㉙	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	行事への招待等はできていないが子どもたちと近所を散歩するとき等、努めてこちらから声をかけたりしていくことで、挨拶を交わしたりする関係性はできている。今後も地域の人たちとの交流を大切に行事等での関りは検討していきたい。	1	4	2
非常時等の対応	㉚	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	基本的な連絡は保護者に知らせているが十分に周知できていない面はある。今後はプリントや保護者会などを通して説明をしていきたい。又、職員とも内容の確認をしていく。	7		
	㉛	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	子どもたちとは年2回訓練を行っている。保護者に対しては、災害時の対応についての大きな流れ(プリントにて)の確認はできている。	7		
	㉜	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	研修会があれば参加している。内容については事後に内部研修を行っている。新聞等で虐待に関する報道等があれば、情報として取り上げ、研修をし注意喚起している。	7		
	㉝	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	虐待の研修、強度行動障害の研修等で、毎回確認している。身体拘束について職員間で共通理解した上で、支援していくなかで拘束にあたる行為が起こるかもしれないと判断した場合は、個別支援計画書に記載をして保護者への同意を取っている。	7		
	㉞	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	保護者の申告に基づいて対応している。	5	2	

④3	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	共有している。内容について会議の時にも取り上げ、気づいたらすぐに対処し、安全にすごせるようにしている。	7		
----	----------------------------	---	---	--	--